



< 12月17日(水) >

21:15 成田発で出発予定である。前回と同じく前日が福岡出張だったため、朝一番の便で会社に戻った。会社(赤坂見附)には10:00前に到着。溜まった出張旅費清算などをやった。それだけで30万円くらいあるだろうか。あまりにも額が大きいので、自分の貯金が一体いくらあるのかよくわからない状態だ。

実はこの時点で荷物をまだ作っていない。そのため、昼過ぎに会社を出ていったん自宅マンションに戻った。今回はホテルでの勉強時間にRouterで最後のシミュレーションをしようと思って、2台の1603R(自分所有)を持ち込むことにしている。普段は会社においているのでハンドキャリーで持ち帰った。1603Rは小型なのでこういう時に便利だ。というよりも、このシドニー行きのために持ち込めるサイズのRouterを購入したというのが正解である。約一時間ほどで慌てて荷物をまとめた。

余談ではあるが、私はこれらの1603R以外にも福岡のオフィスに7台のRouter(2500と4500)、さらにPIX(Firewall)を所有している。それだけで何十万もする資産である。メモリなども自費で増強している。その機器を使って週末は会社に出て勉強を続けている毎日である。日々勉強をすることは当然なので特別なことであるという認識はあまりないが、このようなプレッシャーの中での勉強は体に悪い。今回の試験に合格して、自由に勉強を楽しめるようになりたいと心から願っている。

まずタクシーで池袋まで移動。そこからリムジンバスで成田に移動である。

ここで前回と同じではあるが、今回の出張について説明する。ネットワーク機器メーカーのシスコシステムズ(本社サンノゼ)の最上位資格であるCCIEのラボ試験のための出張である。なおCCIEは現在4種類あるのだが私はRouting&Switchingは既に取得している。そこで新たな挑戦としてSecurityに関するCCIE資格を目指している。ふたつ以上のCCIE資格を所有することを、俗に「ダブルホルダー」「トリプルホルダー」と呼ぶが、2年半前はダブルホルダーが世界で3人で、トリプルは1人だったはずである。現在ではその数も増えているようであるが、それでも何十人もいるものではないと推測され

る。私の計画ではトリプルまで取って、世界屈指のエンジニアになるのが目標なのである。その時点ではサラリーマンをやめても大丈夫であろう。

CCIE 試験は学科とラボ（実技）に分かれるが、学科に合格したものがラボへと駒を進めることができる。私は約一年半前に学科に合格した後、前回出張記に書いたように一度ラボ試験を不合格になり、約5ヶ月間勉強してラボに臨むわけである。前は正直言って通る気があまりなかったが、今回は必勝体制で臨んでいる。毎週末の土日は全て会社に置いた機器を使用しての勉強に当てたのはもちろんだが、平日の夜も会社から帰って、夜な夜な勉強していた。特に直前2ヶ月の平均睡眠時間は4時間を切っているだろう。とにかく必死に勉強をした。

Security ラボは日本では受験できない。サンノゼ、ベルギー、北京もしくはシドニーで受験することになる。Routing&Switching を合格することができたシドニーが土地鑑もあるし時差が少ないので移動が楽なため、受験地に選んでいる。最近受験地に加わった北京が近くていいように思うかもしれないが、私は以前北京に出張に行って、「もう二度と来るか！」と思った過去がある。なのでシドニーが一番良いのである。但し、もし日本で開催されるようになればもちろん日本で受けたいのは当然である。

成田到着。スーツケースの中は技術書などが満載である。さらに2台のRouterも入っている。その上、飛行機の中でも勉強できるようにかなりの書物を機内に持ち込むつもりである。なお、日本では冬であるが、南半球のシドニーは当然夏である。着ていくものが難しい。

私はJALのグローバルクラブ会員なので「Seasons」と書いている、ファーストクラス専用カウンターでチェックインできる。前回、係りのおねえさんに、汚い格好でなめられてエコノミーのカウンターに回されそうになった私であるが、今回はトラブル無し。荷物は大変重い。35キロを示している。普通は20キロまでなのであるが、グローバル特典として40キロまで大丈夫だ。何から何まで優遇されていて、気分は悪くない。

前回はそうであるが、行きだけは自費でビジネスクラスにアップグレードしている。行きで疲労したくないからである。帰りはどうでもよいが、行きで疲れては試験の合否に関わる可能性もあり、慎重になっているのである。こういうところのお金は惜しんではならない。

出発まで2時間くらいはあるので、グローバル専用ラウンジで勉強することにする。なお、ビジネスクラスラウンジではない。グローバル専用ラウンジというのがあってそちらの方がゴージャスなのである。この、成田のグローバル専用ラウンジは素晴らしい。とても広く実にゆったりとした空気が流れている。



今回の出張では重大な使命も背負っている。いつも会社でお世話になってばかりの M さん（女性）から

「カンガルーのキン マ袋でできたポーチを買ってきて欲しい」

と頼まれている。事前に調査をして、画像を何とカラー印刷して持ち込むことにした。そんなもの英語で説明できないので、見せた方が早いだろうという考えからである。ちなみに現地ではラッキーポーチと呼ぶらしい。



< 機内にて >

約 9 時間でシドニー到着であるが、今回も往路はビジネスクラスなので実に快適である。前回、朝の食事が出てこずに、散々 JAL ともめた件があったのであるが、今回は何の不满もない。やはり JAL のサービスは素晴らしい。食事も素晴らしい。鳥料理などを食べた。ビジネスクラスでは、ワインリストの中から選べたりする。普段の外食でもワインリストなどを出されたことは滅多にない。

鳥料理と言えば、巨人の長嶋元監督が、海外で鳥料理を食べようとして注文する時に

「アイム、チキン」

と言っただけらしい。全く長嶋元監督の英語は素晴らしいものである。今回はデモクラシーの話題を出した

が、枚挙に暇がない状況だ。

ビジネスクラス以上では、ちょっとお腹が減れば、JAL のオリジナル商品である「すかいかい」シリーズを食べることもできる。これらには

- ・うどんすかいかい
- ・そばすかいかい

などがある。多分、「すかいかい」と「スカイ」を掛けているのであろうが、と言う事は

「うどん de SKY」

ということだろうか。de などと言われるうどんの身にもなって欲しい。ちょっとおかしくはないか？

昔、NEC の宣伝で「バザールでござーる」というキャッチコピーがあり、テレビ CM でもかなり流れたので印象に残っている方もおられるだろう。これが結構かわいくて、人気になったため、NEC が愚行に出たのである。「バザール de ござーる」などとしゃれた言い方にして、「ござーる」という猿の物語を謎解き風にしたのである。「果たしてござーるの正体は？」という謎解きだったかどうか忘れてしまったが、予想に反して全然盛り上がりせず、全く企画倒れに終わったことがあるのだ。

(注) 猿の名前がござーるだったかバザールだったか記憶がありません。間違っていたらすみません。

たくさんの書物を機内に持ち込んでいたが、本来は到着してからの勉強を一生懸命にすべきであろう。できれば寝ておきたい。パイレーツオブカリビアンなどを見て、眠たくなったのでそのまま寝てしまった。

なお、「JAL ともめた」件であるが、朝食を出されなかった分について、特にビジネスクラスは何十万円も高い旅費であり、食事は旅行の楽しみでもある。なので、食事代のみを返せ、と主張した私に JAL 本社の回答は

「約款上は、A 地点から B 地点までお客様を運ぶことのみ限定して書かれている。それ以外のことについて履行できなかったとしても契約上の問題は生じない。よって謝罪以外のことはできない。」

ということである。これらのことはきちんと文書で頂いている。JAL は色んなメディアで公開しても構わないということなので興味のある方はご連絡頂きたい。

但し、JAL の公式ホームページでは出される食事の内容についてまで細かく書かれている。これを見る人間は、当然だがこれらの食事が出されると期待するだろう。さらにこれらの内容を見て JAL のビジネスクラスを指定して乗る乗客もおられるだろう。JAL は「ホームページの内容は保証しない」と言ったのだが、果たしてそれで納得する乗客はいるのであろうか。天候不良などの理由ではなく、キャビンア

テナントさんの不手際によるものである。私もビジネスマンなので経験があるが、不祥事を起こせば相手先企業から損害賠償を請求されることもある。かつて私の上司は業務上過失致死の疑いで警察の取り調べを受けたこともある。仕事とは厳しいものである。失敗をすればそれなりのしっぺ返しを食うのが現実だと思う。

納得してはいないが、もうこれ以上 JAL に期待しても無駄なように思う。誤解が無いように言うておくが、あくまでも約款上の話をしているだけで、これ以上のことは、JAL としては

「それ以上おっしゃるのであれば、それは民事裁判で争うしかない」

とおっしゃられたので参考にして欲しい。

到着は現地時間の朝9時の予定である。元々、一時間の時差があるのだが、サマータイムでさらに一時間早い。だがこれくらいだったら時差ぼけなどは無いので心配要らない。

< 12月18日(木) >

無事着陸。入国審査へと進む。前回同様に、私は「さとうのご飯」を持ち込んでいる。オーストラリアは食べ物の持込には大変厳しい国である。申告すれば問題の無いものでも黙って通過しようとしてバレてしまったら、罰金や最悪の場合は投獄されることもある。最近も、日本から出張の社員が申告せず、さらに裁判所への上申命令にも従わず、大変な事態になったと聞いている。正直に申告することにした。検疫検査ラインで待っていると、私の前に並んでいたおばちゃんと検疫係官が困っているようである。おばちゃんは何も英語がしゃべれないらしい。私を見つけた係官が

「あなたは日本人ですか？ この人の通訳をして欲しい。」

と頼まれた。ソーメンを持ち込もうとしていることを伝え、無事検査が済んだ。

私も特に問題が無い、、、と思っていたが、ふりかけが引っかかってしまった。卵はダメなのだ。あーあ。。。正確には卵が入っていないふりかけもあったが、ここでもめても仕方ないので

「Please drop them」

と、全て廃棄をお願いした。申告していたので法的な問題はない。

なぜ米を持ち込むのかは、見知らぬ外国でレストランで食事を取ることを想像して欲しい。できれば皆さんもひとりでは行きたくないはずだ。試験に集中したいので、余計な心配を背負いたくないからそのようにしている。なお、今回のように卵や肉類は持ち込み禁止なので注意して欲しい。

タクシーでホテルに向かう。試験が行われるのはシスコオーストラリアのある町で chatswood というところだ。シドニーからはタクシーで30分程かかるところで、田舎町である。もう4回目であるが、とて

も気に入っている町だ。



いつものホテルにチェックインし、まず行ったことは、Mさんから頼まれた例のブーツを入手しなければいけない。ある意味、試験よりも重要な項目かもしれない。フロントで

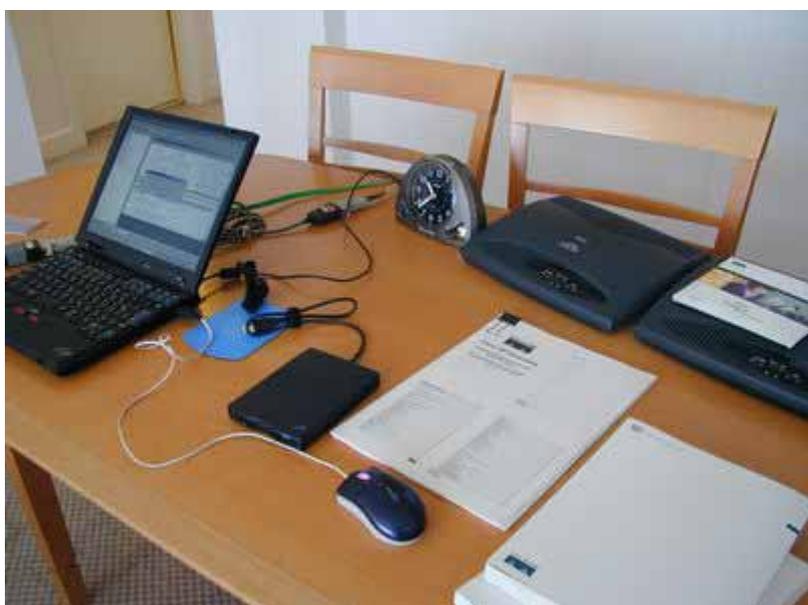
「このタイプのグッズをお土産のために探している。この近辺で扱っているところはないか」

と画像を見せながら尋ねたのだが、

「この辺では売っていない。The Rocks という City に行けば売っていると思う。タクシーを呼びますか？」

ときた。さすがにカンガルーのキン マを買うためにタクシーには乗れない。とりあえずあきらめることにした。

部屋に入り、スーツケースから膨大な勉強道具を取り出した。しかし飛行機の中で寝ていたとはいえ、かなり眠い。しばらく寝ることにした。昼過ぎに目が覚めたのでそれから深夜まで勉強した。



いつもは試験は朝の9時半からの開始なのであるが、直前にシスコオーストラリアからメールが来て

「7時に開始したいので、6時50分にビルの前に来て欲しい」

と連絡が来て、しぶしぶ承諾したので朝が大変早い。1時過ぎに寝ることにした。

<12月19日(金)試験当日>

朝、5時50分に起床し、少し勉強してから受験会場に向かう。もう4度目なので慣れたものである。シスコからは

「朝が早いのでビルはまだ施錠されている。ドアの前で待っておくように」

とのことであった。ほどなく試験官が来て会場に案内される。前回と同じ試験官だ。今回は私の他に3

人の受験者がいる。私以外は Routing&Switching の受験とのこと。



何でこんなに早くの集合になったのか尋ねてみると

「自分は明日から休暇に入るのであるが、病気の親類をピックアップしてから飛行場に行かなければいけない。そのために早く帰宅する必要があった。」

とのこと。やはり、お前の個人的な理由かよ。

簡単に本人確認をして試験開始だ。試験は8時間の長丁場になる。その間はほとんど休むヒマは無い。英知を結集した8時間となる。

シスコとは試験の前に守秘義務契約を結んでいるので、試験内容には触れることはできないのでご容赦願いたい。とても難しい内容だ。公開されている内容の中で説明すると、Router や Switch やファイアウォールを使って大規模なネットワークを構築していき、その際に必要な Security をそれらに施していく。とてもハードな内容だ。CCIE の Routing&Switching に合格できるベースがあって、初めてこの問題の意図がわかるであろう。

試験中、どうしてもクリアできない問題にぶつかった。理論上は動作しない方がおかしい。よほど

「オレは間違えていない。機器の問題ではないか？ チェックしろ」

と、言おうとしたほどだ。だが、どんな時でもそれを避けることができるのが CCIE の実力というものだ。

何とか自分で解決しないとイケない。時間は刻々と過ぎていく。何度も Router を Reboot するがダメだ。

少なくとも動作が確認できていたところまで設定を戻せばいいので、それから考え直そうとしたが、何とそれでも動かない。何で??? そういうことって理論上、おかしいだろ。

結局、違う方法に設定を切り替えて切り抜けたが、合計して約3時間のロス。もうだめかもしれない。その他にもおかしな動作をして、さらに一時間のロス。致命的な時間ロスである。しかし、冷静に現状を分析して、残りの設問と時間を計算してひとつの設問にかける時間を予め設定していった。

あっという間に昼食だ。今回、私の他にアジア人が2人来ていたが、その2人は

「考え中なので食事は食べない」

なんてことを抜かしていた。その時点で、お前たちの負けは決定だ。ご苦労さん。と言いながらも私の頭の中も試験のことでいっぱいだ。

午後がスタート。ロスした時間があまりにも痛くて、時間が足りない。終了ギリギリまでコマンドを打ち込んだが、読むだけで何も設定できなかった問題が多数ある。感触から言って、ダメだろう。

そうこうしているうちにタイムアップ。プロクタに挨拶してホテルに戻った。何度も考えるが、合格するだけの点数は取れていない気がする。しかし、次につなげなければならない。早速、覚えているうちに問題をまとめることにした。なお、これらの覚えた問題は当然であるが他人に教えることはできない。そのようなことをすると、資格剥奪になるし、損害賠償を請求された例もあると聞く。

皆さんはせっかくの海外なのだから少しは遊んだら、なんて気楽なことを言うが、もちろん受験のためなので試験前はどこにも行かないし、終わったら覚えていることをまとめるだけであっという間に深夜になってしまう。この時点で合否はわからないので、次の試験のことを考えてできるだけのことをするのは当然である。公費での出張なのである。

< 12月20日(土) >

朝の6時に起床し、メールをチェックすると合否を伝えるメールが来ていた。残念ながら不合格。また勉強の日々が続く。7時にチェックアウトし、呼んでもらったタクシーで空港に向かう。と、前回と同じタクシーである。前は

「次に来たときは観光の際に自分呼んでくれ。数人でくればとてもお得だ。ツアーよりも安い可能性もある」

とうるさかったのだが、今回も全く同じだ。うるさい。おまけに

「以前、自分のタクシーに乗ったことがあるか？」

と聞いてくるので、本当のことを言うと面倒なので

「いやぁ、覚えてないっすよ。」

とごまかすと

「マイビー（英語の Maybe） 乗ったことがないはずだ。でもあなたの顔はとても親しみやすい。」

などと抜かしやがった。何が親しみやすいだ。全く、うるさい奴だ。まぁ、陽気な奴なので話しにつきあってあげたが、オーストラリアでは携帯電話で話しながらの運転は罰金になるとのこと。ハンズフリーを使用しなければならない。シートベルト未着用も罰金とのこと。日本では多くのばか者が運転中に携帯で話しているばかりか、メールも打っていると言うと

「オー、テリブル！」

と言っていた。まぁ、当然だろう。実際、恐ろしいことだ。以前、たまごっちを操作していた死亡事故を起こしたバカ主婦がいたが、そのうちメールで死亡事故も起こるだろう。いや、もう、起きているかもしれない。確か、日本でも近々法整備されると聞いているが早くして欲しいものだ。

空港に到着。早速チェックインし、ここでも例のポーチを探すことにした。民芸品を売っている店があったので行って画像を見せると、親切にも

「この店には無いが、あそこの店だったらあるかもしれない。」

と、わざわざ教えてくれた。で、そこに行ってみて画像を見せると

「オーッ、それなら置いてますよ。」

とのこと。やっとゲットできた。どういう免税措置なのかわからないが、お酒を買う時みたいにパスポートと搭乗券を見せるとディスカウントしてくれた。但し、出国の際に外してもらえらるが、タグをつけられた。キン マごときに大袈裟である。キン マが免税品かよ。



今回の出張の大きな目的のひとつ（キンマ搜索）はこれで達成できたが、やはり試験に合格しないとダメだ。次回は約2ヵ月後を設定したいと思っている。また、帰ってから勉強漬けの毎日になるだろう。実際、帰りの便では、Routingの基本からやり直そうと思って、BGPとOSPFに関するドキュメントを読みまくった。帰りの便にも、かなりの技術書を持ち込んでいるのである。成田に着いたとき、

「おや、もう着いたのか」

と思ったほど、勉強に没頭していた。

これを書いている時点で成田から東京のマンションに戻る途中なのであるが、もう明日には福岡に戻って日曜日に勉強予定である。私の挑戦は果てしなく続くのである。